

2007年度JICA-GIS集団型研修の開催

JICAからICCAEが委託を受けた集団型研修「平成19年度（第3回）GIS（地理情報システム）による天然資源・農産物の管理」が、2007年8月16日～9月19日まで、名古屋大学生命農学研究科で実施されました。アルゼンチン、グアテマラ、バヌアツ、パレスチナ、ブルキナファソ、ベナン、マケドニア、ミャンマーの8カ国から9名の研修員を迎え、大阪市立大学、国際農林水産業研究センター（JIRCAS）、岐阜県立森林文化アカデミーからの講師陣によって、FOSS（Free and Open-Source Software）-GISのGRASSとMapserverおよびRemote SensingやGPSの技術移転が行われました。併せて、GISを用いて天然資源や農業資源の管理、地域社会の様々な情報管理を実施している日本の研究機関や民間企業を訪問し、その実例を学びました。研修員には移転を受けた技術を、FOSSの特長を生かし、それぞれの国で広めることが期待されています。なお、一人の研修員が健康上の理由で研修開始早々帰国を余儀なくされ、健康検診が重要であることが再認識されました。（浅沼修一）



GIS研修の様子

AICADのパトリック・ワク氏が国際シンポジウムで講演

AICAD（アフリカ人造り拠点）のパトリック・ワク氏が、ICCAEの招へいで来日し、2007年9月12日～13日に東京の国連大学ウ・タント国際会議場で開催されたJ-FARD/JIRCAS主催の「ミレニアム開発目標へのわが国農業研究者の貢献—国内連携と人材の育成—」国際シンポジウムで講演しました。AICADはICCAEが学術交流協定を結んでいるケニアにある地域国際機関です。ワク氏は、これまで7年間のJICA/AICADプロジェクトと最近2年間のICCAEとの学術交流を振り返り、AICADは、今後、貧困削減のために地域

コミュニティに対する技術移転を活性化し地域開発に取り組んでいくので、日本の経験に基づくJICAやICCAEを通じた支援が必要である、と強い期待を表明しました。（浅沼修一）



ワク氏が国際シンポジウムで講演

※J-FARD:持続的開発のための農林水産国際研究フォーラム

名古屋大学東京フォーラムでICCAE紹介パネルを展示

2007年10月19日、政策研究大学院大学において開催された第5回名古屋大学東京フォーラムに山内章ICCAEセンター長が参加し、パネル展示による活動紹介を行いました。今回のフォーラムでは、「アジアに繋ぐ知の架け橋」をテーマとして、日本とアジア諸国との新しい関係を築き上げるための様々な先駆的事業が紹介されました。当センターは、カンボジア王立農業大学（RUA）の教育研究強化支援に関する取り組みを中心に、センターの活動目的と活動概要の紹介を行いました。（山内 章）

JICA短期派遣専門家としてAICADプロジェクトの事業企画案作成に協力

榎原大悟ICCAE准教授が2007年5月14日から8月1日までAICADプロジェクトのJICA短期派遣専門家としてケニア、タンザニア、ウガンダに派遣されました。これまで、AICADでは事業の一環として貧困削減のための研究支援や研修が行われてきました。2007年度中に開始される同プロジェクト・フェーズ3においては、地域住民に対してより直接的に裨益する活動に力を入れる方針です。AICADのこれまでの活動成果を基に現場レベルで成果を挙げるにはどうしたらよいか、同准教授とプロジェクト関係者は協議を重ね、新たな事業企画案を作成しました。同提案を基にAICADの活動が構築され、アフリカにおける貧困削減に貢献することが期待されます。（榎原大悟）